

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅 観光協会
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 補助金 内閣府 国土交通省 厚生労働省
 〔建物形式〕 1 棟単体型 複数棟集合型 団地型 建物状況 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真 1. 外観写真

南木曾町は長野県の南西部、木曾谷の南端に位置し、日本初の重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿内に 2020 年に移築した観光協会。2015 年度から民営化を始め、2019 年から一般社団法人南木曾町観光協会としての活動を開始した。一般社団法人としての運営により、旅行業の取得など活動の幅を広げている。近年、外国人観光客が増加している。

■施設概要

所在地：長野県南木曾町吾妻 2196-1

施設種別：観光協会

運営主体：（一社）南木曾町観光協会
 （妻籠観光協会の事務も兼任）

構造・階数：木造・1 階

運営開始：2015 年より民営化（2015 年以前は南木曾町役場内に観光協会が含まれていた。）

移転時期：2020 年 4 月（以前は南木曾駅内の観光案内所で活動）

訪問日：2021 年 3 月 26 日 11：00～

訪問者：荻原雅史，森野耕司

お話を伺った方：樋口信雄氏

（こちらの記録をベースに、以下にまとめる）

1. 南木曾町について

1) 概要

南木曾町は長野県の南西部、木曾谷の南端に位置し、そのうち 94%が森林で占められている。町の中央を流れる木曾川とその支流をはさむ段丘に、与川、北部、三留野、妻籠、蘭、広瀬、田立の 7 集落が広がり、約 4,000 人が生活している。

木曾川沿いには南北に J R 中央西線と国道 19 号が走



写真 2. 敷地周辺 googlemap より

JR 南木曾駅から車・バスで 5～10 分程度の場所に設立している。



写真 3. 妻籠宿の町並み

中山道の町並み，風景が広がっている。

参考文献

- 1) 南木曾町観光協会 HP <http://www.town.nagiso-nagano.jp/kankou/>
- 2) 妻籠観光協会 HP <http://tumago.jp/index.html>
- 3) 公益財団法人 妻籠を愛する会 <http://tumagowoaisurukai.jp/>



写真 4. 重要伝統的建造物群保存地区についての看板
重要伝統的建造物群保存地区の詳細事項が記載してある。



写真 5. JR 南木曾駅
移転前に南木曾町観光協会が駅内の観光案内所を利用。

り、東西には、国道 256 号が伊那谷に通じている。隣県の中津川市中心部まで約 22km、県内近隣市町村の木曾町まで約 35km、飯田市まで約 35km の距離にあり、古来から伊那谷、木曾谷と美濃を結ぶ交通の要衝であった。

地質の大部分は、風化が進み脆くて崩れやすい巨晶花崗岩からなり、急峻な斜面が多く平坦面が少ない地形である。また気候的には温暖ながら雨量が多く、年間降水量は多い年には 2,500mm から 3,000mm に達する。こうした地質・地形・気候は、幾多の土石流災害を引き起こす一方で豊かな森林資源を育み、町は古くから木材生産・加工業を基幹産業としてきた。近年は国選定重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿や、国の近代化遺産に指定された桃介橋をはじめとする恵まれた文化遺産と、新たに開発された温泉の活用による観光産業が町の主要産業に位置付けられるようになった。

2) 歴史と文化の里

"木曾路はすべて山の中である"という藤村文学の名作「夜明け前」の冒頭を具現する中山道。

南木曾町の道は、古き調べをそのまま伝えてくれる貴重な語り部として、私たちの手で受け継ぎ次代の人達へ残すべく、これからの私たちの未来を築くための財産でもある。

南木曾町には、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「妻籠宿」や重要文化財に指定されている「桃介橋」、国指定史跡の歴史の道「中山道」をはじめ、数多くの歴史的文化遺産が多く存在する。

また、田立歌舞伎などの無形文化財についても、保存団体により後世に受け継ぐ努力が続けられ、このような「日本の原風景」が南木曾町にある。

2. 運営概要

1) 運営主体

南木曾町観光協会が立ち上がった当初は、行政主導であったため、南木曾町役場の中に存在し、運営は産業観光課の職員が行っていた。長野県では観光協会の法人化・民営化が進んでいたこともあり、南木曾町観光協会も 2015 年度から民営化の話が立ち上がり、準備委員会が設立された。これまでは、南木曾町長が観光協会会長とされていたが、2015 度からは委員会の会員の中で会

長を選出するようになった。

2015年度から話し合いを進め、2019年8月に南木曾町の約20団体（妻籠観光協会（事例番号：1597）・北部観光協会・商工会など）で、一般社団法人南木曾町観光協会を設立させた（実際に登記したのは同年10月）。2019年の8月から登記される10月までに、新しい会員を募集し、目標は100人に対し、約60人が集まった。一番大きい団体は妻籠観光協会で40人程度が加入している。

設立時は事務所もなにもない状況で、南木曾駅内の観光案内所にて業務を行っていた。現在の場所は、元々JAの営業所があり、JA営業所閉鎖に伴い、行政と調整の上、2020年の4月に移転した。立ち上げた当初に covid-19 が拡大したため、例年3万人以上来ていた外国人観光客がほぼ0人になってしまった。

2) 事業内容

協会の活動目的は妻籠のブランドを生かして全国に向けた観光発信をすることである。covid-19 で大ダメージを受けてしまい、事業計画等はまだしっかり準備できていないが、一般社団法人になり、旅行業の資格が取得可能になったため、2020年度に地域限定の旅行業の資格を取得し、2021年度から活動を本格化する予定。まずは近隣住民に南木曾町を知ってもらう目的で、2020年度は現地集合、現地解散でのツアーを2～3個行った。

2021年度3月では、役員10名、会員が110名で運営している。会員内訳が99%南木曾町民で県外は3-4人。JR東海の中津川駅や、中津川の業者、銀行、商工会などが会員である。

3) 民営化後の変化

民営化後、事業はまだ本格的に動いてないため、分からない部分もあるが、町の運営と切り離して事業を実施できるので、これまでとは違った活動ができると考えている。民営化以前は行政任せだった部分もあった。

財政面では収入源がないため、3年間、南木曾町の補助金が充てられる予定になっている。4年目以降の運営資金はまだ未定。

3. 活動状況

1) 地域に訪れる客層



写真6. 観光協会内部

妻籠宿に関する情報の展示、パンフレットの配布を行っている。



写真7. 観光協会内部

妻籠宿に関する情報の展示、黒板にはおすすめポイントなど記載。

国内の観光者は80%が中京圏から訪れている。妻籠宿から長野県庁が3時間、愛知県庁は1時間半～2時間の地理関係のため、中京圏の方が地理的に近い。訪れる層は家族連れや女子旅など多様な層が来ている。歩く人は年配が多く、若い人は車を利用している。また、東京・千葉・名古屋・新潟など遠方から南木曾町の水道局が配布しているマンホールカードを目的に訪れる方も多い。

外国人は欧米人（イギリス人）が圧倒的に多い。イギリスとは風景が異なり、観光地化されていないのが良いのではないかと。団体や夫婦での訪問はアジア系の国の方が多い。観光者のパターンは妻籠宿から歩く場合か、電車を利用して別の観光地も回る場合に分かれる。

2) 日帰りでの訪問客

妻籠は日帰りが多い傾向だが、外国人は泊まる方が多い。民宿でも一泊8,000～9,000円ぐらいの値段設定のため、妻籠宿内の人気な宿、御宿大吉でも10,000円である。民宿でも年間1,000万円くらいインバウンドで売り上げがあった。

3) covid-19による影響

妻籠宿では例年1～3月の観光客は比較的、他の月よりも少ない傾向である。2021年は、色々なイベントが中止になり、更に訪問客は少なくなっている。誰も来ない日もあるが、土日は少しずつ訪問客が増加しつつある。

2020年は8月から11月までGOTOキャンペーンのおかげで、前年の訪問客の70%を取り戻すことができた。covid-19以前は民宿でも年間1,000万円くらいインバウンドで売り上げがあったが、インバウンド売上は40～50万円に減少している。

4) 活動で成功していること

民営化して間もないため、今のところ大きく成功したところはない。妻籠では元々、健康志向やグリーン志向などをcovid-19以前からアピールしていた。インバウンドで訪れた方は歩いて街道を体験することに魅力を感じているので、馬籠～妻籠のウォーキング案内も実施している。そのため、馬籠～妻籠間で荷物を運搬する体制を整え

クシー運送会社に委託している。これまでは、妻籠観光協会が行っていたウォーキングだが、妻籠観光協会は南木曾町観光協会内の1団体のため、現在は南木曾町観光協会が運営・事務を行っている。ウォーキングの荷物はcovid-19以前は年間6,000個あった。この運搬事業がしっかりと確立してくれば、南木曾駅や近隣のホテルまで荷物を運ぶといったことも可能になってくると考えている。しかし2021年3月時点では、インバウンド訪問客がなくなったため、運搬サービスも中止している。

2020年度、一般社団法人で旅行業の資格を取得したこともあり、大手旅行代理店に任せるのではなく、協会自身でツアーが開催できる。ヤギ牧場のツアー、ろくろ体験などの見学ツアーを実施、妻籠を愛する会理事長の知り合いで長野県戸倉上山田「旅館 亀清」を運営している方などを講師として招き、住民に向けた講演会を実施した。2021年度も周辺地域を対象としたお茶摘みツアーや和紙のツアーなどを計画中。色々活動を広げたいと考えているが、人手が不足している部分もある。また、こういった活動に同地区にある妻籠観光協会は、あまり関係はしていない。

HPも妻籠観光協会のHPは去年整え直しており、2021年度は南木曾町のHPも整える予定。現在、南木曾町観光協会のHPは、役場の職員が運営しているので、新たに一般社団法人でHPを作る予定。このようなことが成功の実績になってくると考えている。

5) 妻籠のアピールポイント

町並み保全が一番のアピールポイントになる。継続的に町並みの保全を実施しているのは妻籠宿の東側。

6) 参考にしてる地域

馬籠観光協会、中津川観光協会の社団法人、一番大きい木曾福島観光協会と情報交換をして参考になっている。馬籠・妻籠は元々長野県であったので交流は盛んであった。

4. 立地環境

1) この地域での課題・立地の関係性

観光時には「交通網」が課題になる。特急は一日に4本しか止まらないこと、1日5往復をしていたバスがあったが、2021年では3時間に1本の地域バスのみ。タクシー料金は、隣の岐阜県より長野県は傾斜地のため高く、JRで南木曾駅にたどり着いても、そこからの交通手段が歩きしかない。地域交通網に課題を抱えるが、「歩ける」ことは外国人訪問客のような中長期滞在できる方には良いと感じられるかもしれない。

また一番大きな問題は「人口減少・少子高齢化」である。約65年前に読書村、吾妻村、岐阜県境の田立村が合併し南木曾町になった際は、南木曾町の人口は1万人であったが、2021年の南木曾町の人口は約4,000人にまで減少している。

民宿が増えた昭和43年頃は、経営者の年齢層も若かったので多くのサービスの提供ができたが、現在は経営者の高齢化が進み、階段の上り下りが大変などの理由で民宿をたたんでしまった例も多い。妻籠は、専業で民宿・旅館をやっている人は少なく、兼業しながらの人が多く、covid-19が主要因での倒産は一軒もない。2021年時点では、民宿7件、旅館3軒で10軒が妻籠宿内にある。妻籠から10kmくらいのところに大江戸温泉、そこから3kmのところに富貴の森温泉がある。これらホテルタイプの施設に宿泊される方も多く見られる。

2) 空き家状況

空き家は宿場通りにも存在している。妻籠宿外の方に空き家が渡り、空き家改修などによって町並み保全が壊れないために、妻籠を愛する会が発足し、会が空き家を取得した例もある。外部から資本が入らないように規制をかけているのが「売らない・貸さない・こわさない」の3原則である。しかし、現在、高齢化が進行しているので、規制の改善が求められてくる時期なのではないかと考えられる。保存が優先され町並みが変わっていないのは、日本で妻籠だけだと思われる。変わらな



写真8. 休憩所

妻籠宿内の古民家を改修し、シャワー付きの休憩所に変更した。



写真9. 駅前の空き家改修の宿泊施設

妻籠宿の外には複数空き家改修の宿泊施設が点在している。この写真は、南木曾駅前に空き家をリノベーションしたゲストハウス「MOUNTAinn NAGISO」

いところが外国人訪問客がいいと思うところではあるが、不便に感じるときもある。

空き家の規制がある中で、海外向けツアーをおこなう旅行代理店「奥ジャパン」が妻籠宿内の空き家を利用して事務所を地域の下承を得て設置するなど、変わってきている部分も少しずつ見受けられる。

3) 周辺地域の空き家をゲストハウスについて

(株)フォークロアは隣の読書地区に本社を置き、南木曾駅前に空き家をリノベーションしたゲストハウス「MOUNTAinn NAGISO」を2020年にオープンさせたが、covid-19の影響で1年間閉めていた。運営している方は地域おこし協力隊で来られ、南木曾で3軒の施設の経営を行っている。

(株)Zen Resortsは古民家改修して一泊13万の超高級な「Zenagi」を運営している。その隣には地元産の食材を使用したレストランを併設している。

妻籠宿内の家を家主の親戚が改修して、民泊を実施したこともあった。最初はインバウンドのお客さんが多かったがcovid-19の影響により、やめてしまった。

4) 旅館・民宿以外でcovid-19が影響している部分

直接、covid-19の影響で閉まったところはない。しかし、運営者の高齢化により営業することが難しくなったため、去年、民宿が1軒、民宿以外でも閉業する店舗が2、3軒あった。民宿に関しては半分以上が後継者がいない状況である。妻籠宿である以上、宿泊施設がないといけなく感じており、今のうちからやる気があり、景観を守れるような人を外部から呼ぶなど、手を打たないといけなく考えている。ここ3-4年で変化がより目に見えてくるのではないか。

5) 周辺宿場との比較

周辺には馬籠宿、奈良井宿がある。隣接する馬籠宿は妻籠宿とは法律・条例が異なるため飲食店やお土産屋の看板の出し方も自由度が高い。土地ならではの土産を購入することが多い宿場通りで

は、馬籠宿の方が観光者向きで、売上が伸びやすい。

奈良井宿と妻籠宿では、宿場通りで地区が分かれていることや飲食店・お土産屋の看板を目立たせないなど、馬籠宿に比べると共通点が多いと感じる。

6) 宿場内の構成

妻籠宿内では地区ごとに役員構成され、配布物や住民とのコミュニケーションはすべて役員で担当しており、2年周期で交代している。宿場のトイレ掃除なども係を決めて、毎日行っている。休憩所は古民家を改修して、妻籠を愛する会が管理している。年に1回、宿場内で行列を行うので、更衣室として使用したり、外国人がウォーキング後にシャワー浴びるためのシャワースペースを設置している。

宿場内の管理者の看板や注意書きには南木曾町観光協会と記載してあるが、妻籠を愛する会・妻籠観光協会・南木曾町観光協会の線引きはしっかりしているわけではない。管理そのものは、妻籠を愛する会が行っている。古民家改修を行う際は、妻籠を愛する会内の規定があり、毎月20日に妻籠を愛する会が行っている会合に提示する必要がある。

7) 地元の人との交流と暮らしの課題

業務的には会員以外の地元の人との交流はないが、南木曾町で行っているゴミ回収袋を南木曾町観光協会が販売していることが現状の交流となっている。会で販売しないとバスに乗って袋だけ買いに行くことになってしまうため、この事業も重要な活動である。他にも地元野菜を販売するなどの予定は立っているが、人の力が必要になるため、現時点では難しい。ゴミ回収袋以外の生活用品の販売(ティッシュやトイレットペーパー)も頼まれているが実現できていない。

周辺地域では、10年前にコンビニが1軒、南木曾駅の前にスーパー2軒のみある状況で車を利用すればすぐ行けるが、地域バスは1~2時間に1本、タクシーを使うと1300円ぐらいかかってしまう。また、車で20分かけて中津川市

内に行く選択になってしまうため、極端にいうと住民の買い物が困難な地域である。

交通に関しては権兵衛峠ができて交通網が変わり、妻籠宿は塩尻インターから1時間半、伊那から1時間、中津川インター40分、飯田インターから1時間の地理関係である。食材に関しては、近隣地域の上松町に3～4年前に完成した生協の配送拠点の倉庫から配送車が配達にきている。完成前までは塩尻市から配達が行われていた。また、セブンイレブン系列や生鮮食品関連・宅急便は伊那市からも来ている。交通網の発達により、新たな倉庫などができ、生活がしやすい環境が整いつつある。

(以上、作成者：東京電機大学 森野耕司,
2021.04)